

### 3、合同体育

#### (1) 児童の運動にかかわる実態把握から

今年度小学部の実態調査として、粗大運動チェック、からだの輪郭表、ムーブメント教育プログラムアセスメント等を実施したが、これらの調査の結果運動にかかわるものとして、次の様な結果が得られた。

- ①小学部の児童の発達段階はおよそ3才前後である。
- ②筋力、持久力に比べ調整力を必要とするものが劣っている。
- ③調整力、筋力、持久性に比べ身体意識が低い。

#### (2) 内容の組み立てにかかわって

このような児童の実態を考え次の様な内容を取り入れることにした。

- ①小学部の児童の発達段階に応じた運動を取り入れる。
- ②主として調整力を必要とする運動を取り入れる。
- ③身体像、身体図式を育てる運動を取り入れる。

#### (3) 合同体育のねらい

小学部の研究テーマと関わって合同体育では次の様なことをねらう。

- ①身体的発達を図る。
  - ・身体の諸機能や運動能力を調和的に発達させる。
- ②精神的発達を図る。
  - ・意志的発達、情緒的発達、及びその安定を図る。
  - ・自主性、自立心、忍耐力、積極性を養う。
  - ・心の開放を図り、緊張を和らげる。
- ③社会性の発達を図る。
  - ・協力、役割、きまりを守る等の体験をし、社会性の基盤を養う。

#### (4) 指導にあたって

指導にあたっては次の様な点に留意しながら指導を行なうようにした。

- ①児童の実態を把握しておく。
- ②いくつかの運動を組合せて行なう。
- ③段階的に反復しながら、一貫性をもって指導する。
- ④ひとりひとりをよく観察し、能力に応じた指導をする。
- ⑤日常の遊びに発展するように指導する。

#### (5) 指導計画

月	ねらい	体操	リレー	中心となる内容
4	・瞬発力 ・平衡性 ・柔軟性	あしあし 体操	汽車 リレー	○かっこ ・短距離走 ・ファーストソネルをくぐる  ○体力テスト ・垂直とび ・立位体前屈 ・握力 ・肺活量等
5	・柔軟性 ・協応性 ・平衡性			○とんでくぐって ・平均台をまたぐ ・平均台をくぐる ・輪をくぐる  ○マットあそび ・マットの上を歩く ・斜めになったマットの上を横転する
6				

7	・水に親しむ	ラジオ体操	○ボールあそび ・水の中を歩く ・わに歩きをする ・トンネルをくぐる ・水中石拾いをする
9	・瞬発力 ・協応性		○ボールあそび ・懸つけ ・けのび ・バタあし ○うんどうかい ・短距離走 ・ブロックを積んで家を作る ・大玉ころがし ・ジェンカ
10	・平衡性 ・敏捷性 ・筋持久力	どんぐり体操	○すずきならそう ・平均台をくぐる ・ブロックをまたぐ ・ろくばくに登って鈴を鳴らす ○いもひき競争 ・ユーンの間をジグザグに走る
11	・平衡性 ・協応力 ・柔軟性		○どんぐり山へ行こう ・ブロックの上を渡る ・とび箱に登って降りる ・階段に登って降りる ・平均台の上を渡る ・すべり台に上がって下りる
12	・平衡性 ・柔軟性 ・協応性		○マットあそび ・ゆきだるまになって転がる ・自由に転がる ○ボールあそび ・ボールを持って歩く ・自由に転がす
1	・平衡性 ・柔軟性 ・協応性		○マットあそび ・連続して前転する ・走ってきてマットの上で転がる ○ボールあそび ・ボールを両手で転がす ・的にむかって転がす
2	・筋持久力 ・協応力 ・瞬発力		○おすもう ・おしくらまんじゅう ・すもうごっこ ○ボールあそび ・ボールを投げる ・的にむかって投げる
3	・瞬発力 ・柔軟性 ・平衡性 ・敏捷性		○おにごっこ ・ひとりおにをする ・手つなぎおにをする ○ダンス

### (6) 考察と今後の課題

上記の様な指導計画に基づき指導を行なった結果、子供達の動きそのものはよくなってきたが、課題として①指導内容の精選②運動量の確保③指導内容の系統性④目標の立て方、評価の方法等が残された。これらの課題を解決していきながら今後も指導を続けていく必要があるが、その為には児童の実態や課題を的確にとらえながら指導していくことが大切だと感じた。